

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300097		
法人名	有限会社 のどか宅老所		
事業所名	小規模ホーム のどか		
所在地	岡山県津山市神戸262-1		
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=3390300097-00&PrefCd=33&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成26年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅での生活が継続できるよう本人や家族の特性を踏まえ、その日その日に合わせたサービスが利用できるよう柔軟に対応している。家族とのコミュニケーションをしっかりと図り、本人の状態把握に努めるとともに家族の介護負担の状況なども把握するようにしている。また看護面については看護師が身体面・精神面について細かく観察しており緊急時の体制も整えている。
若い職員が多い分意欲的なケアへ取り組むことができているが、一人一人に合わせた個別支援の面においては課題がある。日々の関わりの中から利用者の思いを汲み取りその人に合わせたケアが実現できるよう、職員全員が専門的な知識を身につけ、充実したケアへ繋げていくことを今後の目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「家庭生活の延長上にある介護」とは、特に変わった事をするのではなく、自然の時間の流れの中での生活を支援することではないだろうか。穏やかな雰囲気の中で、利用者一人ひとりが思い思いに過ごす様子が見られ、職員はそれにさりげなく寄り添い支えている。また、必要な時に必要な支援が行われている。家族からの要望への対応が適切に行われているので、信頼も厚い。病院の協力体制や看護師の配置より、医療面での体制も整えられており、日々変化する利用者の体調管理も行われている。職員は現状に満足することなく、利用者本位に立って一人ひとりの個別支援が行えるように、内部・外部での研修等に参加し専門的な知識を身につけるように努め、理念の共有や連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来事業所の理念としている「家庭生活の延長上にある介護」を職員と共通理念としている。又職員は個々の理念を自分で持ち現場で実践している。ケア会議で振り返りながら必要なことを見直している。	事業所の理念は、先輩職員から受け継ぎ、個々の理念を持ちながら日々のケアを実践している。また、振り返る機会も持ちながら、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを特別に意識していない。私達も自宅に住んでいる時に特別に意識して生活をしていないと思う。散歩で会えば挨拶し、行事があれば参加しごく普通に生活している。その積み重ねが地域の住民としての生活につながる。	家庭生活の延長上であることが基本となっており、日常的に挨拶を交わす事はもとより、地域とのつながりが続けられている。地域の行事にも自然に参加している。	今後、事業所の取り組みを地域へ広めるような活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの幼稚園と時間があれば遊びに来たり、祭りなどの行事を通じて交流している。家庭で高齢者と接することが少なくなっているが施設とか認知症に関係なく世代間の交流が自然にできている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の生活状況や、事業所の活動の報告をしている。家族、地域、行政の方々から意見をもらい活用している。地域から行事などの情報をもらい参加している。	家族・行政の担当者・町内会長等が参加し、家庭・地域・事業所の様子など情報や意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営していく中で疑問点や問題となることが出てくるが市の担当者と相談するなどして解決している。日ごろから連絡を取っているので協力関係は築けている。	小規模多機能事業所として、看護はどこまで提供できるか、訪問看護はどこまで医療を提供できるのかという疑問や問題点について、市の担当者に相談し解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来鍵かけなどの身体拘束を行わないことが、当たり前のこととして運営している。このことは介護保険が始まる前から実践している。新規職員にも会議の中で説明し理解してもらっている。	身体拘束はしないことが当たり前という意識の中でケアを行っている。また、内部研修を実施することで、意識を共有し身体拘束をしないケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは暴力だけでなく言葉や態度など様々な場面で起きることを会議の中で説明している。介護職員としての職業倫理を自覚するように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名の方が成年後見制度を活用されている。より理解を深めるため外部研修などへ参加し制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等がある場合は一人一人に説明し、疑問点があれば納得していただけるまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族と話しをしている中で要望があれば聞いている。直接言いにくい事は連絡帳を活用したり運営推進会議で意見を聞けるようにしている。	利用者・家族から、直接話を聞いたり連絡帳を活用することで、意見や要望を表せる場を設けている。出された意見や要望に適切に対応することで、利用者・家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で意見を聞き運営に生かしている。	会議や朝のミーティングなどで、職員からの意見を聞く機会を設けている。意見を取り入れたり改善することで運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場を自分たちで作り上げていく喜びの中で向上心を持ってもらっている。残業はなくストレスや疲れがたまらないようになっている。労働安全法に従って健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設研修や外部研修に参加してもらい、必要な知識を得る機会を設けている。研修委員会からも定期的に研修のお知らせを掲示してもらい参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に見学に行き得るものがあれば取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時の対応が特に重要であるため、利用開始時には必ず本人の暮らしている所で面接を行い、生活状況、精神状態、生活歴などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に家族とよく話し合い、その中で意見を聞いている。また事業所の方針や、できること、できないことなどをよく説明して理解して頂いた上で、利用を決定している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人や家族の思いを確認し、スタッフと情報を共有し必要な対応を考える。利用者が必要としているサービスの把握は当然だが家族の負担の軽減も合わせて考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員という関係ではなく、お互いが共に生活を送っている意識で関係を築くようにしている。利用者が出来ることを把握して、なにか一つでも自発的に行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時に利用者の様子を伝える中で、家族の状況、家庭生活の状態を把握している。また担当者会議などで詳しく情報交換を行い必要な支援内容を話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけたり、近所の方と挨拶を交わし関係が途切れないよう努力している。地域での生活が継続していけるよう支援内容を考えて提供している。	理念に沿って、馴染みの人や場所との関係継続が自然に行えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いができるよう空間作りや環境を整えている。職員も一緒に過ごす事で輪が広がり利用者同士の関係作りがスムーズに行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談があれば支援をする。長期入院により契約が終了しても再度利用を考えている時には、待機者を入れずに枠を空けて安心して治療をしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者、家族の思いをくみ取り、毎朝のミーティングやケア会議で検討し必要があれば見直しをしている。	利用者・家族とコミュニケーションをとる中から要望を聞いたり、思いや意向をくみ取れるように寄り添うケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	体調面、精神状態、言葉、表情などを日々の関わりの中で把握に努めている。家族との話の中で新たな情報があれば申し送りや、会議の中で伝達し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報、夜勤日誌、バイタルなど正確に記録することで判断し対応している。日々暮らしていく中で、できることをみつけ本人の持っている力を、発揮できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を開き必要があれば介護計画を見直して、新たな目標を作る。家族の現状を把握することが特に必要で、家庭生活が継続できるようにプランを必要時に見直している。	普段から、利用者・家族・職員からの意見を取り入れ介護計画を立てている。また、モニタリングシートを活用し、計画の見直しや情報交換を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は出来るだけ随時に記入し日々のケアに生かしている。工夫したことや気づいたことなどは細かく記録し職員全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランを固定化するのではなく利用者、家族の現状に合わせたサービスを提供している。利用時間や泊まりなどは出来る限りその日に合わせた対応ができるよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者世帯のみの利用者には宅配のお弁当を紹介したり、理容院などへ行けない人には訪問利用を紹介し利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時以外基本的に家族対応して頂いている。主治医との情報の連携はその都度行っている。	受診は、基本的に家族が対応している。必要に応じヘルパーが同行し、かかりつけ医への受診を支援している。また、緊急時には、協力病院と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルを記録し、変化があれば報告して、受診に繋げている。場合によっては看護師が訪問している。体調の変化があれば早めに家族と連絡を取り対応を考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の医師、看護師と連絡をよく取っているため入院、退院はスムーズに行えている。必要があれば他の病院も紹介してもらえる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には重度化・終末期に事業所として出来ること、出来ないことを推進会議の中などで説明している。終末期についてはその都度家族と話し合っている。本人・家族の意向を重視するようにしている。	利用者・家族の意向を把握し、事業所で対応出来る事と出来ないことについて説明している。現在は、重度化されると医療機関や他の施設へ移られている。	今後の医療政策の中で、病院で終末期が過ごせない状況が出てくることが考えられる。そのため、終末期への取り組みを検討されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的とまではいかないが研修などで知識を身に付けている。資料を常時閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施している。スプリンクラーも全館設置し火災に対応している。	併設の事業所と共に、年2回、日中・夜間を想定しての避難訓練を実施している。また、消防設備会社も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者として対応するのではなく一人の人として、又その人の生き方を尊重しながら、言葉かけや対応の仕方に注意している。	一人ひとりを尊重した声かけや対応をすることで、利用者が落ち着いて過ごすことが出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべてを判断するのではなく、本人に必ず問いかけをしながら決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のマニュアルを決めてしまうのではなく、できるだけその時どきの状況にあわせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら服装などを決めていく。利用時には必ず入浴し、清潔にし身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の食材や果物を使用し食事やおやつを利用者の方と一緒に作る機会を設け、楽しみながらできるようにしている。	献立に利用者の意見が反映されるように要望を栄養士に伝えている。旬のものを食べられるように食材にこだわったり、おやつと一緒に作ったりすることで食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に合わせて普通食、キザミ食、ミキサー食で対応している。カロリー計算や、メニューも考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいなど毎食後実施している。口腔内の状態を観察し異常がある場合には家族に報告し歯科受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付けることにより個人個人の状態を把握しトイレ誘導して排泄の自立を支援している。	ほとんどの方が自立しているが介助の必要な方には排泄記録をつけ一人ひとりの状態を把握しトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で問題行動を引き起こすこともあるので、食事に繊維質や乳製品のものを取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にそった支援は出来ていないが一人ずつゆっくり入浴できるように努めている。	一般浴と特浴を使用し、ゆっくり入浴していただけるように支援している。季節に応じ、ゆず湯等の入浴を楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活動的に支援することにより一日の生活を整えるように支援している。眠れない利用者には職員が会話をしたり、飲み物などを提供して安心できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を個々に管理して誤薬のないようにしている。薬の説明書も読んで内容の把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方には音楽をかけたり、囲碁や将棋など利用者同士が楽しめるよう配慮している。天気の良い日には散歩や買い物に出かけ気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事があれば参加している。季節ごとに思い出の場所に出かけたり、外食へ出かけたたりと本人の希望にそった支援ができるよう努力している。	先日、利用者の要望に沿って外食支援を行い喜んでいただいた。今後も個々に又は何人かで外食に出かけられるように計画している。季節に応じお花見や紅葉狩り、地域の行事にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものがあれば事業所が立て替えて買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要があれば使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓に障子を入れたり、畳コーナーを作り落ち着いて暮らせるようにしている。家の居間を大きくした感じで従来過ごしていた環境に近いなかで過ごせるようにしている。	柔らかい照明、木目の床、畳の敷いたスペース、ゆったり過ごせるソファなど、一人ひとりが思い思いに穏やかに過ごせる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブル付のキッチンを配置したり、テーブルなどの配置で空間が遮られるようにして居場所づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室で落ち着いて過ごせるようにしている。数日泊まれる場合は、自分の持ち物を持ち込み安心できるようにしている。	使い慣れた寝具などを持ちこみ落ち着いて過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを多く配置して排泄の失敗が無いようにしている。プライバシーが保たれるよう、目立たない所に設置している。		